

日本航空宇宙学会和文論文サンプル^{*1}

Sample of Paper for Journal of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences

(8mm アキ)
航 空 一 郎^{*2, *3}・宇 宙 花 子^{*3}
Ichiro KOKU and Hanako UCHU

(8mm アキ)
Key Words: Format Sample

Abstract: This is the manual for how to prepare your paper for Journal of the Japan Society for Aeronautical and Space Science. All the papers should be written by appropriate word processors with the format specified in this manual.

記号の説明

V: 速度
X: 位置

1. はじめに

これは、日本航空宇宙学会論文集に投稿する際の論文の見本です。論文執筆の際にはできる限り見本に近い書式で作成していただきますようお願いいたします。

2. 書式

2.1 原稿全体の書式 原稿全体の書式を第1表に示します。

第1表 原稿全体の書式

用紙サイズ	A4判
原稿ページ数	最大15ページ(オンライン誌“論文”), 最大4ページ(オンライン誌“技術ノート”)
余白	左右各約18mm, 上下各約25mm
字体	和文はMS明朝あるいは平成明朝 英文はTimes-New-Roman

2.2 題目等の書式 題目等の書式を第2表に示します。題目等は2段組にしないでください。

行間は、題目間以外は約12.5~14pt, 題目間は約20ptとして下さい。(行間はMS Wordなら、書式一段落から自由に変えることができます。)

日本語題目の終わりには上付きで*1をつけ、1ページ目左下にあるように、7.5ptで書いてください。

著者名には、右肩に上付きで*2, *3等をつけ、1ページ目左下にあるように、7.5ptで書いてください。

1 ページ目左下に書くことは、提出後に変更が無い様にして下さい。変更があった場合、行数が変化し、それ以降の文章、図の位置が変わるなどしてしまふ可能性があります。この部分の行間隔は10pt程度にして下さい。また、論文の受理された日を記すために、*1の欄と*2の欄の間には必ず1行あけるようにして下さい。

第2表 題目等の書式

第1行	第1行には右寄せで 一論 文— (真中のスペースは全角3文字分) と約9pt ゴシック体で書くこと。
題目	第1行目から1行空けて、約14pt太字で日本語題目(ゴシック体)、改行、英文題目(ボールド体)と書くこと。中央揃え。
著者名	英文題目から1行空けて、約10ptで著者名、改行、英文著者名と書くこと。中央揃え。日本語著者名では、7倍取りになるように均等に空白を入れ、英文著者名の名字の2文字目以降はスモールキャピタル(7.5pt)とする。
英文キーワード	英文著者名から1行空けて、約8ptで記入。中央揃え。太字の Key Words: の後に記入する。
アブストラクト	英文キーワードから1行あけて、約8ptの英文で記入。左寄せ。全角一文字分のスペースの後、太字の Abstract: に続けて約100語~200語で記入する。文字間隔はなるべく詰めるように。

2.3 本文の書式 本文の書式を第3表に示します。

本文はアブストラクトの後2行空行を入れた後、2段組で書き始めてください。文字サイズは約9ptとし、行送りには約13.5ptにしてください。1行の文字数は1段26文字、51行程度になるはずで。

セクション、サブセクション共に、番号と番号の後のピリオドには半角を用い、全角の空白を1文字分入れてか

^{*1}©20** 日本航空宇宙学会
20**年**月**日, 第**回宇宙科学技術連合講演会にて発表
20**年 月 日原稿受付
^{*2}連絡先著者 (Corresponding author) :
^{*3}所属を書く

らタイトルを書いてください。

新しい段落に入るときには、先頭に全角空白を1文字分入れてから、本文を書き始めてください。

基本的には数字は半角を用いるようにして下さい。また句読点は、。ではなく、. を用いてください。

記号の説明がある場合は最初に書いてください。その際、セクションタイトルは記号の説明とし、セクション番号はつけないで下さい。

第3表 本文の書式

文字サイズ	約9pt
セクションタイトル	9pt ゴシック体で中央寄せとする。2行取りの真中に入れて下さい。その後の本文は次の行からはじめること。
サブセクションタイトル	サブセクションタイトルの前には空行はいれず、約9ptのゴシック体で、全角の空白を1文字分入れた後に書くこと。その後の本文は、サブセクションタイトルの後に全角の空白を1文字分入れてからはじめること。

2.4 引用文献 引用文献は論文末尾にまとめて書いてください。その際は、参考文献という、番号のないセクションに書いて下さい。引用の際、本文中では¹⁾あるいは^{2~4)}等の様に書いてください。末尾引用文献記載例を以下に示します。フォントの大きさは7.5ptとして下さい。参考文献の行間は10pt程度にして下さい。

- 1) Hains, F. D. and Keyes, J. W. : Shock Interference in Hypersonic Flows, AIAA J., 10 (1972), pp.1441-1447.
- 12) Batchelor, G. K. : An Introduction to Fluid Dynamics, Cambridge University Press, London, 1967, pp.580-593.

上の例では1)と12)の)を揃えるようにして下さい。

巻数はボールド体とし、ページは巻についての通しページにしてください。

3. 図、表および数式の取り扱い

図は見えにくくならないように、大きさに注意をして下さい。図のキャプションは

第1図 図の説明

(最後は2段並行止め(左と右の段でそろえて終わる)にしてください。)

MSワードの場合、原稿の最後の行で改行して、「挿入」→「改ページ」で「セクション区切り」「現在の位置から開始」でできます。

の様にし、第*図の後に全角空白を1文字入れて図の説明を書いて下さい。図のキャプションは図の下中央に配置してください。



第1図 JSASSのシンボル

表のキャプションは

第1表 表の説明

の様にし、図のキャプションと同じように、第*表の後に全角空白を1文字入れて表の説明を書いて下さい。表のキャプションは表の上中央に配置してください。

キャプションの文字サイズは図、表共に7.5ptを用いるようにして下さい。また、表中のフォントサイズは7.5ptとし、行間は11pt程度として下さい。

数式は、全角の空白2文字分入れてから書き、必要に応じて数式番号を右端から全角一文字分左に付けて下さい。フォントの大きさは約9ptとし、なるべく本文に揃えるようにして下さい。

$$y = ax + bx^2 + \dots \quad (1)$$

数式と本文との間も空き過ぎないように上手く調節して下さい。

参 考 文 献

- 1) 日本航空: 日本航空宇宙学会論文集執筆要綱, 日本航空宇宙学会論文集, 47 (1999), pp. 319-322.
- 2) 木村 孝, 山田 弘: 参考文献の例, 第129回参考文献講演会講演集, 1999, pp. 147-150.

